

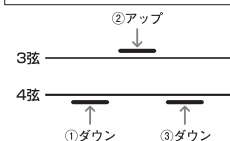
注意点1

無駄のないピッキングには
手首のスナップが重要!

6連オルタネイト・ピッキングでは、2小節目1拍目のようなボール・ギルバートなどが得意とする1音だけ弦移動してすぐ戻る常套フレーズが登場する。このフレーズは、弦移動が多いので、少し複雑なピッキングを行わなければならない(図1-a)。ここでミスしやすいポイントは、1音だけ隣弦を弾き、すぐに元の弦に戻って来る時の“切り返し”とその“ピッキング軌道”だ(図1-b)。切り返しポイントが膨らみ過ぎると余計な動きが大きく、また帰ってくるピッキングの軌道が高いと次のピッキング体勢にすぐに入れない。この両方を克服するためには、ピッキング時に手首のスナップを利かせる必要がある。切り返しポイントでスナップを利かせたピッキングを行えば、無駄のない動きでフレーズを弾けるだろう。

図1-a 少し複雑なピッキング・パターン

アウトサイドからアウトサイド



インサイドからインサイド

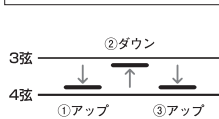
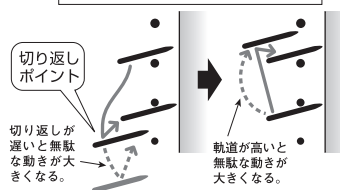
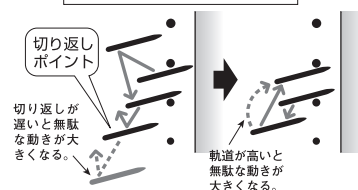


図1-b 切り返しポイントとピッキング軌道

アウトサイドからアウトサイド



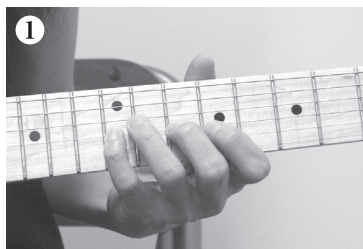
インサイドからインサイド



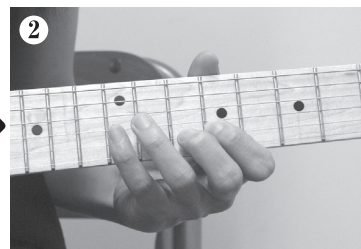
注意点2

1音のみの弦往復では
人差指&小指の動きに注意!

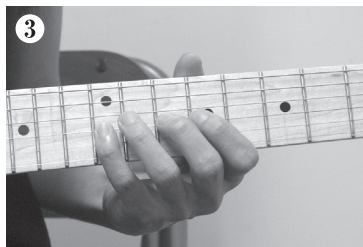
このフレーズでは、基本的に上昇フレーズは人差指、下降フレーズは小指を先頭に、3音1セットで弦移動または平行移動を行なう。1小節目3&4拍目は、少し複雑な弦移動となっているので注意しよう(写真①~④)。この部分を弾く際に注意してもらいたいポイントは2つ。1つ目は、3弦12フレット(小指)から2弦9フレット(人差指)へ弦移動する際、小指は弦移動をさせずに3弦上で空中待機しておくこと。そうすることで、無駄な動きが減るだろう。続いて2つ目は、人差指の指先で3弦をミュートすることだ。これは、弦移動時に起きやすいミス・タッチによるノイズを防ぐ役割がある。素早く、ミス・トーンの少ない速弾きを弾くために意識してもらいたい。



弦移動直前の小指の押弦。人差指の移動準備もしよう。



弦移動後の人差指による押弦。小指は3弦上で待機!



続いて3弦に戻る。この時、人差指も戻しておこう。



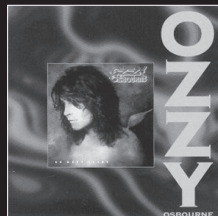
中指による押弦。直前の小指押弦時に準備しておくとう良い。

~コラム15~

地獄の戯れ言

ここでは、マシンガン・ピッキングの名手と言える3人のギタリストの作品を紹介しよう。1枚目はブルー・マダーの1stアルバム『ブルー・マダー』。ジョン・サイクスの超高速ピッキングを堪能できる。ちなみにこれは、筆者の愛聴盤だ。次はオジー・オズボーンの『ノー・モア・ティアーズ』。もはや説明不要のザック・ワイルドによる豪快なマシンガン・ピッキングが満載の1枚だ。最後はドリーム・シアターの『アウェイク』。ジョン・ペトルーシが、実はマシンガン・ピッキングの使い手でもあることを再確認させてくれるプレイが多数収められた充実作だ。

プロに学べ! マシンガン名盤紹介

ブルー・マダー
『ブルー・マダー』オジー・オズボーン
『ノー・モア・ティアーズ』ドリーム・シアター
『アウェイク』